

コロナ禍のニーズが地域に集まって広がった助け合い

コロナによって、客足が激減した飲食店、開催が軒並み中止になったフリーマーケット、発表の場がなくなってしまった地域の活動団体、サークル活動などが制限されコミュニティを求める大学生、近場の遊ぶ場所を必要とする地域の方を一つのイベントに集め、助け合いが広がりました。多摩SDCでは、このようなニーズのマッチング(=中間支援)を行っています。

2

「総合事業に定める生活支援の助け合いに関する活動」以外の地域共生に関する活動

学生も動き出した

# コロナ禍のニーズが地域に集まり助け合いが広がる！

◆登戸・たまがわマルシェ◆  
2022年5月 登戸駅近く多摩川の河川敷で開催。主催は多摩区ソーシャルデザインセンター(略称 多摩SDC)。コロナ禍で活動が制限される地域の学生や活動団体、飲食店などが1つの場所に集まった。地域のニーズを地域の中で満たしていく助け合いのサイクルが実現した。コロナによって生まれたニーズがコロナ禍だからこそ“地域”に集結した。



【多摩区ソーシャルデザインセンター】  
まちのひろばの創出、相談業務、中間支援、を機能の柱とする一般社団法人。2020年に川崎市の施策によって発足。子ども食堂の立ち上げ支援、学生の就活の支援、障がい者団体の活動支援などの活動を行っています。活動は、地元の大学生や社会人が中心となって行い、最近では高校生や中学生の方もボランティアスタッフとして参加してくれています。

More Information

